

教師が大切にしたい「きく」の基本

授業、休み時間、面談など、学校生活の中で教師が子どもの話をきく場面はたくさんあります。どの場面においても、教師が子どもの話に耳を傾けながらきくことで、子どもの理解やその子に合った指導・支援につながりやすくなります。

ここでは、教師が子どもの話をきくための基本について確認しましょう。

「きく」ときに大切にしたいこと

『カウンセリングマインド』

あたたかい信頼に満ちた人間関係を築こうとする態度・心構え

受容的な態度

子どもの存在を心から認め、関心をむけること

共感的な態度

子どもをできるだけわかろうと努力すること

誠実な態度

子どもにも自分にも偽りや飾りなく向き合おうとすること

カウンセリングマインドの3つの態度を意識して子どもの話をききましょう

3つの態度を意識するって
どうしたらいいの？

まずは次のことを心がけて
ききましょう！

心にゆとりをもって

子どものことを知ろうとして

うなずきながら最後まで

これならできそう。
やってみよう！

子どもの話を「きく」とは？

子どもの話をきくときには、具体的に何をどのようにきいたらよいのか、教師がおさえておきたいことを、子どもが「話していること」「感じていること」の2点にまとめました。

子どもの何を「きく」のか

話していること

- * 経験、知識、考えなどが言葉で表現されたもの



感じていること

- * きき手との関係性などによって自然とわいてくる「今ここの感情」
- * 過去の記憶と結びついている「あの時の感情」

どのように「きく」のか

□ 話していることを正確に捉える



質問したり確認したりしながら、適宜わかったことを伝え返し、正しく共有しましょう。

(例)

「〇〇について教えて。」

「〇〇と理解したのだけれど、合っているかな？」

□ 感じていることを受け止める



子どもの「今ここの感情」や「あの時の感情」を想像し、子どもの感情を必要に応じて伝え返しましょう。

(例)

今は〇〇な気持ちかな…?

「あの時は〇〇な気持ちだったんだね。」

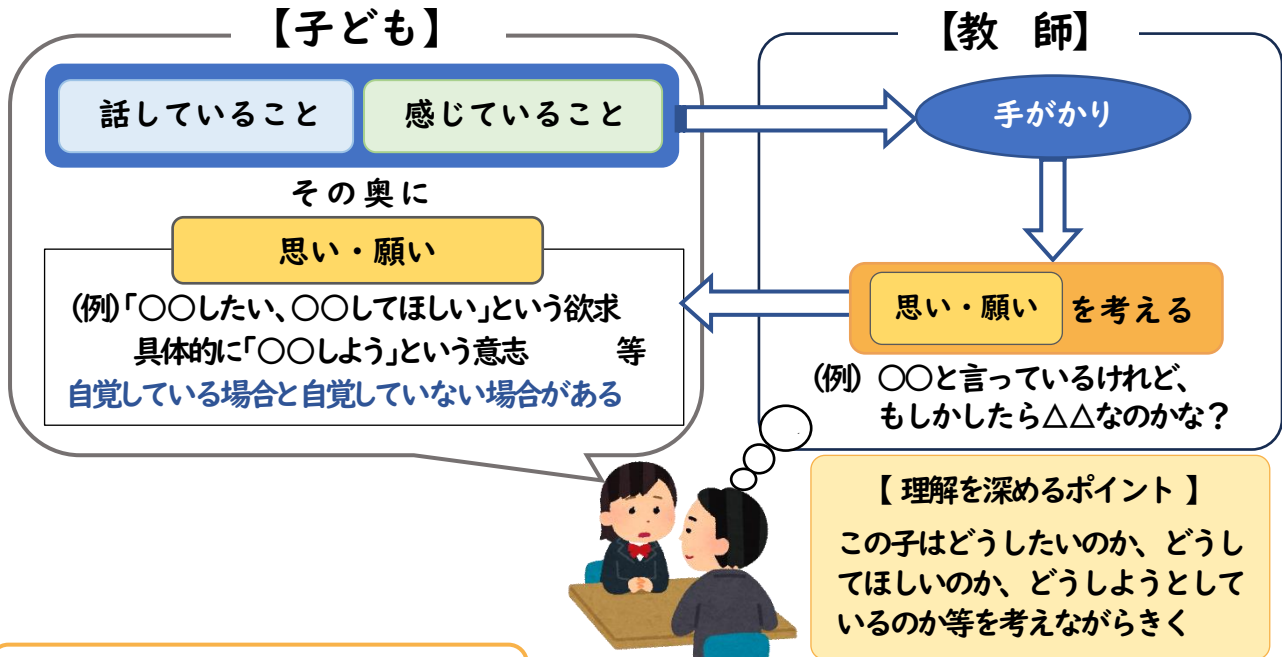


教師が子どもの「話していること」を正確に捉え、「感じていること」を受け止めながらきくことで、子どもの理解につながります。また、子どもは「先生に話せてよかった」と実感しやすくなります。

「きく」をとおして指導・支援につなげる

子ども一人一人に合った指導・支援につなげるには、子どもの思い・願いを考えながら、子どもの理解を深めるように話をきくことが大切です。特に、適切に自己表現できなかったり、しようとしなかったりする子どもには、以下のことを丁寧に行いましょう。

子どもの理解を深める



具体的な場面で考えよう

● 休み時間に一人で机に伏してため息をついているAさん

教師 : どうしたの? 元気がないけど、何かあったの?

Aさん: どうせ、テスト勉強したっていいことないし…。もう何もしたくないです!

教師 : (だいたい投げやりな発言だな。声の調子から少し怒りの感情も感じ取れるな。) ← **手がかり**

(もしかしたら悔しいのかな。…頑張りを認めてほしいのかな。) ← **思い・願い** を考える

勉強してもいいことない。何もやりたくない! って思うんだね。少し悔しい気持ちもあるのかな?

Aさん: …。…。…。そうかもしれません。

教師 : 悔しいということは、それだけ勉強を頑張ったということかな?

Aさん: はい。頑張ったんです…。

教師 : そうか…。悔しくなるくらい勉強を頑張ったんだね。

Aさん: はい。…テスト、もっと点数とりたかったな…。

教師 : 今度はもっと点数がとれるといいね。今後に向けて一緒に勉強方法を考えてみない?

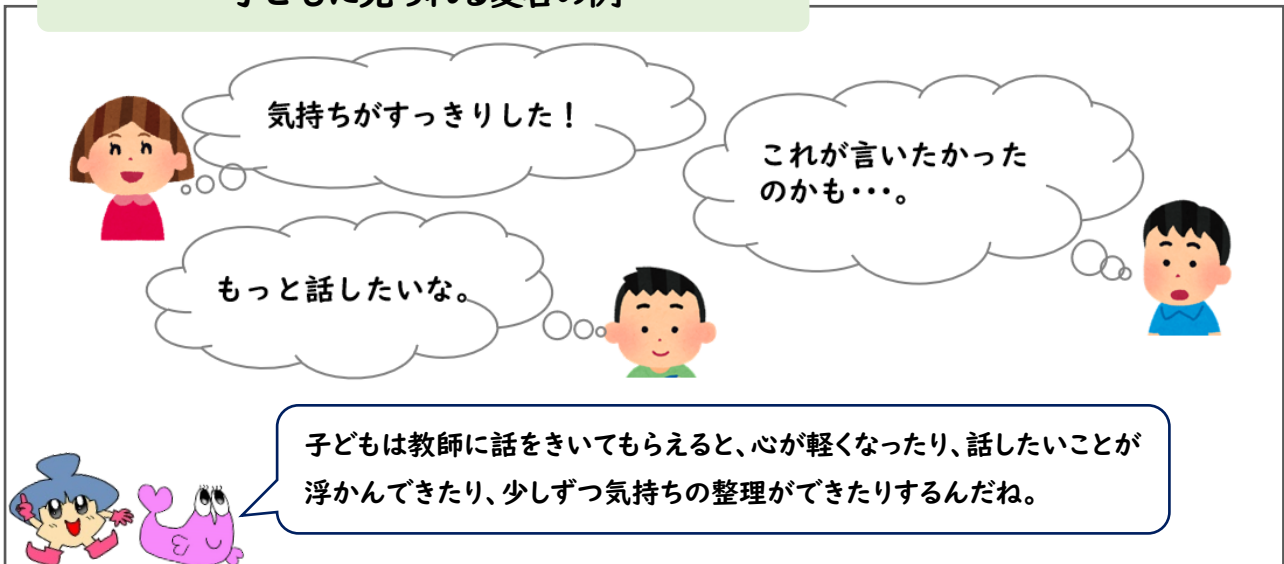


子どもの「話していること」「感じていること」を手がかりにして、「思い・願い」を考えながらきき、指導・支援につなげていきましょう。

教師が「きく」ことによって 子どもは・・・

教師は子どもの「話していること」を正確に捉え、「感じていること」を受け止め、「思い・願い」を考えながらきくことが大切です。教師がこのようにきくことで、子どもが「先生はわかってくれた、認めてくれた」等と感じられると、それぞれのペースでの前向きな変容につながっていきます。

子どもに見られる変容の例



教師は、子どもの悩みや課題等に対してアドバイスをしなければならないと思ってしまいがちです。教師が「きく」の基本を学ぶ意味は、子どもが自分の力で悩みや課題等を乗り越えられるように支えることにあります。「きく」ことを大切にしながら、日々子どもと向き合っていきましょう。

留意点

子どもの話を「きく」ときは・・・

環境



- ・子どもが安心して話せる場所、時間等を確保する
- ・子どもとの距離や座席の位置を調整する

非言語



- ・呼吸のリズムや声のトーン、話す速さなどを子どもに合わせる
- ・アイコンタクトをとりながら、子どもの話に合わせて相づちを打ったり、うなずいたりする

注意



- ・思い込みや決めつけを脇に置く
- ・なぜ、どうしてと問い詰めず、話せるようになるまで待つ
- ・正論や助言は子どもの話をまずきいてから

栃木県総合教育センター 教育相談部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070
TEL 028-665-7211
発行 令和6(2024)年3月

センターWeb サイト
～とちぎ学びの杜～の
調査研究からダウンロード
できます。